

○再整備・再配置の方向性

豊岡第一地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。 ※地区センターに移行しない施設は地区での意見交換を踏まえて活用方法を検討する。	1 扇町屋公民館を活用する案	【メリット】 ・防災拠点としての配置を考慮すると、小・中学校との配置バランスが良い。 【デメリット】 ・自動車でのアクセスが増えることが想定されるが、周辺道路の幅員が狭い。 ・複合化による施設拡大や駐車場確保に向けた敷地拡張の余地がないため、駐車場を離れた場所に設置する必要がある。
		2 久保稲荷公民館を活用する案	【メリット】 ・小中学校が近くに位置するため、学校との連携が図りやすい。 【デメリット】 ・一部が借地であるため、土地の購入を検討する必要がある。 ・複合化による施設拡大や駐車場確保に向けた敷地拡張の余地がないため、駐車場を離れた場所に設置する必要がある。
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・対象エリアが変わらないため、最寄り施設までの距離や時間が維持できる。 【デメリット】 ・2館を存続させた場合、1館分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・現在のサービスは変わらず受けることができる。 【デメリット】 ・地域の拠点施設として、機能を充実させることができない。 ・各種行政手続きや福祉、地域包括支援センター、自治振興といった地域に必要な機能のワンストップ化につながらない。	

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 扇小学校を活用する案	【メリット】 ・継続して活用するため、安定して運営することができる。 【デメリット】 ・他の施設を複合化する場合、敷地拡張が難しい。
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図る。	1 扇・扇第二学童保育室を扇小学校に複合化する案	【メリット】 ・複合化することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 向原中学校を活用する案	【メリット】 ・継続して活用するため、安定して運営することができる。 【デメリット】 ・他の施設を複合化する場合、敷地拡張が難しい。
保育所	施設が老朽化しているため、豊岡地区内の3つの保育所（豊岡・黒須・高倉）を統合して、新たに施設を整備する。	1 既存施設がある土地を活用する案	【メリット】 ・市の所有地の場合、新たな用地取得が不要である。 【デメリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が必要である。
		2 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・施設の選択が残ることとなる。 ・現在の定数が維持できる。 【デメリット】 ・3園を存続させた場合、1園分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。	
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
扇台福祉作業所	長寿命化を図る。

○再整備・再配置の方向性

豊岡第二地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設の活用を前提とするが、他の広域対応施設との複合化についても検討する。	1 東町公民館を活用する案	【メリット】 ・市役所やその他の広域対応施設の配置を考慮すると、地区内での配置バランスが良い。 【デメリット】 ・一部が借地であるため、土地の購入を検討する必要がある。 ・複合化による施設拡大や駐車場確保に向けた敷地拡張の余地がないため、駐車場を離れた場所に設置する必要がある。 ・集中豪雨の際に敷地の一部が浸水しており、防災拠点としての安全性に不安がある。
		2 広域対応施設を活用する案 ※想定されるのは産業文化センターへの複合化	【メリット】 ・他の機能と複合化することで相乗効果が見込まれる。 ・地区の中心部近くに移転することとなるため、全体的な利便性が高くなる。 【デメリット】 ・地区センターが複合化されることで、多くの機能が集約されることになり、駐車場の不足が懸念される。 ・市役所に近くなるため、役割分担を明確にする必要がある。
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・施設設置後に移転ができるため、業務停止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	複合化しない場合の想定		【メリット】 ・現在のサービスは変わらず受けることができる。 【デメリット】 ・地域の拠点施設として、機能を充実させることができない。 ・各種行政手続きや福祉、地域包括支援センター、自治振興といった地域に必要な機能のワンストップ化につながらない。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低い場合、既存施設を活用することを前提とする。	1 豊岡小学校を活用する案	【メリット】 ・地区の中心部近くに存在するため、多くの児童が通学しやすい。 【デメリット】 ・敷地拡張ができないため、保育所を複合化することは困難である。 ・豊岡地区の中央に存在するため、他の地区の通学区との関係にも配慮する必要がある。
		2 東町小学校を活用する案	【メリット】 ・小中一貫教育を行う上では、中学校と隣接していることで、実施しやすい環境にある。 【デメリット】 ・隣地にある中学校を含めると大きな公共用地があり、将来的には他の公共施設用地として活用しやすいため、こうした面も配慮する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。 ・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。	
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 豊岡と東町学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いと、既存施設を活用することを前提とする。	1 豊岡中学校を活用する案	【メリット】 ・地区の中心部近くに立地するため、多くの生徒が通学しやすい。 ・小学校の通学区に課題のある豊岡第3地区の一部を通学区として見込むことができる。 【デメリット】 ・現段階で想定される事項はない。
		2 東町中学校を活用する案	【メリット】 ・小中一貫教育を行う上では、小学校と隣接していることで、実施しやすい環境にある。 【デメリット】 ・隣地にある小学校を含めると大きな公共用地があり、将来的には他の公共施設用地として活用しやすいと、こうした面も配慮する必要がある。
	統合しない場合の想定		【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・学級数が少なくなると、配置される教員数が減少するため、各教科に専任の教員を配置できない可能性がある。 ・生徒数が少ないため、部活動の種類（選択肢）が減る可能性がある。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
市役所	(仮称)市役所整備計画に基づいた整備を実施する。
市民会館・中央公民館	市役所の複合施設への機能移転を前提に、廃止し除却する。
産業文化センター	長寿命化を図ることとするが、施設に備える機能については別途見直しを検討する。
児童センター	長寿命化を図ることとするが、施設に備える機能については別途見直しを検討する。
市民体育館	機能を維持し、長寿命化を図る。
市民活動センター	機能を維持し、長寿命化を図る。
防災センター	機能を維持し、長寿命化を図る。
入間市駅南口自転車駐車場	機能を維持し、長寿命化を図る。ただし、長期的な視点で大規模改修か更新かを検討する。

○再整備・再配置の方向性

豊岡第三地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。 ※地区センターに移行しない施設は地区での意見交換を踏まえて活用方法を検討する。	1 黒須公民館を活用する案	【メリット】 ・黒須公民館を中心とする範囲に、地区内の住宅が多く収まるので、多くの住民の利便性が高くなる。 【デメリット】 ・丘陵地にある住宅地（高倉地区）からの利便性が悪くなる。
		2 高倉公民館を活用する案	【メリット】 ・丘陵地にある住宅地の方々の利便性を確保できる。 【デメリット】 ・地区内の居住者が比較的少ない地区への配置となるため、地区全体の住民にとっては利便性が低下する。
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・現状や課題を踏まえ、配置バランスに係る課題を解決することが見込まれる。 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・対象エリアが変わらないため、最寄り施設までの距離や時間が維持できる。 【デメリット】 ・2館を存続させた場合、1館分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・現在のサービスは変わらず受けることができる。 【デメリット】 ・地域の拠点施設として、機能を充実させることができない。 ・各種行政手続きや福祉、地域包括支援センター、自治振興といった地域に必要な機能のワンストップ化につながらない。	

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 黒須小学校を活用する案	【メリット】 ・住民の8割が丘陵の下部で生活しているため、多くの児童が通学時、丘陵を昇降する必要がない。 【デメリット】 ・地区の北端に立地するため、通学距離が大幅に延びる児童がでてくる。
		2 高倉小学校を活用する案	【メリット】 ・校舎の耐用年数が25～30年程度残存しているため、当面既存施設を活用することができる。 【デメリット】 ・住民の8割が丘陵の下部で生活しているため、多くの児童の通学距離が大幅に延び、通学時に丘陵を昇降する必要が出てくる。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。 ・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。	
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 黒須と高倉学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 黒須中学校を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・地域区分と通学区の不整合について調整する必要がある。
保育所	施設が老朽化しているため、豊岡地区内の3つの保育所（豊岡・黒須・高倉）を統合して、新たに施設を整備する。	1 既存施設がある土地を活用する案	【メリット】 ・市の所有地の場合、新たな用地取得が不要である。 【デメリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が必要である。
		2 別の場所へ移転して存設する案	【メリット】 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・施設の選択が残ることとなる。 ・現在の定数が維持できる。 【デメリット】 ・3園を存続させた場合、1園分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。	
地区体育館	既存施設の活用を前提とする。	1 黒須地区体育館を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・地区の西端に存在するため、配置バランスが悪い。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
武道館・弓道場	機能を維持し、長寿命化を図る。

○再整備・再配置の方向性

東金子地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。	1 東金子公民館を活用する案	【メリット】 ・既存施設を活用することができる。 【デメリット】 ・複合施設として整備することを考慮した場合、敷地の拡張が難しい。
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 東金子小学校を活用する案	【メリット】 ・地区の中心部近くに存在するため、多くの児童が通学しやすい。 【デメリット】 ・新久小学校に通学している金子（根岸）地区の児童への配慮が必要となる。 ・敷地の拡張が難しい。
		2 新久小学校を活用する案	【メリット】 ・保育所が至近距離にあるため、連携を図りやすい。 【デメリット】 ・人口の少ない地区の端部に位置するため、通学距離が大幅に延びる児童が出てくる。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。 ・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。	
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 東金子と新久学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いいため、既存施設を活用することを前提とする。	1 東金子中学校を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・新久小学校区の地区区分と通学区を合わせるための調整が必要となる。
保育所	現在の場所での建替えの他、移転についても検討する。なお、移転先については、小学校隣接地や公共施設跡地を含めて検討する。	1 現地での建替え	【メリット】 ・新たな用地取得が不要である。 【デメリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が必要となる。
		2 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が不要である。 ・小学校隣接地に移転できれば、相互交流が可能となる。 【デメリット】 ・小学校隣接地には建設できるスペースが少ないため移転できる可能性が低い。 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
地区体育館	既存施設の活用を前提とする。	1 東金子地区体育館を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
青少年活動センター	当面機能を維持するが、耐用年数に応じて施設の廃止を検討する。
学校給食センター	現地での建替えの他に公共施設跡地を活用して施設を移転して建設することも検討する。
総合クリーンセンター	機能を維持し、長寿命化を図る。
リサイクルプラザ	機能を維持し、長寿命化を図る。

○再整備・再配置の方向性

金子地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	多くの公共施設が集まっている現在の配置を維持し、既存施設の活用を前提とする。	1 金子公民館を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・複合施設として整備することを考慮した場合、敷地の拡張が難しい。
小学校	多くの公共施設が集まっている現在の配置を維持し、既存施設の活用を前提とする。	1 金子小学校を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図る。その際には、現在2つの建物に分かれているものを一本化して整備する。	1 金子学童保育室を小学校に複合化する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
中学校	多くの公共施設が集まっている現在の配置を維持し、既存施設の活用を前提とする。	1 金子中学校を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
保育所	現在の場所での建替えの他、移転についても検討する。なお、移転先については、小学校隣接地も検討する。	1 既存施設を活用して統合する案	【メリット】 ・新たな用地取得が不要である。 【デメリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が必要である。 ・金子第一保育所は、借地であるため、可能な限り解消する必要がある。その場合、第二保育所が候補地となる。
		2 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が不要である。 ・小学校隣接地に移転できれば、相互交流が可能となる。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定		【メリット】 ・施設の選択が残ることとなる。 ・現在の定数が維持できる。 【デメリット】 ・2園を存続させた場合、1園分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模

		改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。
--	--	--------------------------------

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

（２）広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
農村環境改善センター	機能を維持し、長寿命化を図る。
農業研修センター	機能を維持し、長寿命化を図る。

○再整備・再配置の方向性

宮寺・二本木地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。 ※地区センターに移行しない施設は地区での意見交換を踏まえて活用方法を検討する。	1	宮寺公民館を地区センターとする案 【メリット】 ・既に支所機能があり、他の部屋の機能を見直すことにより、既存施設の活用が見込める。 ・地区の支所としての認知度が高い。 【デメリット】 ・敷地が狭く、複合化に際しては、駐車場等の用地を確保する必要がある。
		2	二本木公民館を地区センターとする案 【メリット】 ・施設が新しく敷地が広い ・複合化による機能拡張に対応しやすい。 【デメリット】 ・宮寺・二本木地区の西端に位置するため、利便性が悪い。
		3	別の場所へ移転して新設する案 【メリット】 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・対象エリアが変わらないため、最寄り施設までの距離や時間が維持できる。 【デメリット】 ・2館を存続させた場合、1館分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・現在のサービスは変わらず受けることができる。 【デメリット】 ・各種行政手続きや福祉、地域包括支援センター、自治振興といった地域に必要な機能のワンストップ化につながらない。	

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
小学校	既存施設を活用することを前提とするが、新たな用地取得も視野に入れて検討する。	1 狭山小学校を活用する案	【メリット】 ・宮寺小と比較すると児童数が2倍程度であるため、多くの児童が通いやすい位置にある。 ・敷地が広いと、施設の拡張にも対応できる。 【デメリット】 ・地区の北端に位置するため、宮寺地区からの通学距離が大幅に延びる児童がでてくる。 ・国道16号を横断することになり、通学の安全性を確保する必要が出てくる。
		2 宮寺小学校を活用する案	【メリット】 ・宮寺地区の中心に存在するため、宮寺地区の児童は通いやすい位置にある。 ・保育所と隣接しているため、相互交流が図りやすい関係にある。 【デメリット】 ・敷地が狭く、道路等に囲まれているので敷地の拡張が見込めない。 ・一部借地があり、その解消ができなくなる。 ・狭山小と比較すると児童数が半分程度であり、配置バランスが悪い。 ・国道16号を横断することになり、通学の安全性を確保する必要が出てくる。
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・現状や課題を踏まえ、配置バランスに係る課題を解決することが見込まれる。 ・施設設置後、移転ができるため工事の影響が少ない。 【デメリット】 ・学校用地として広大な土地を取得する必要がある。 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。
	統合しない場合の想定		【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。

		・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 宮寺と狭山学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。
中学校	施設が新しく、新たな統廃合の見込みはないため、既存施設を活用することを前提とする。	1 武蔵中学校をそのまま活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
保育所	現在の場所での建替えの他、移転についても検討する。なお、移転先については、小学校隣接地も検討する。	1 宮寺保育所を活用する案	【メリット】 ・新たな用地取得が不要である。 【課題等】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が必要である。 ・配置バランスが悪く、他地域からの通所が難しくなる。
		2 二本木保育所を活用する案	
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が不要である。 ・小学校隣接地に移転できれば、相互交流が可能となる。 【課題等】 ・小学校隣接地に移転できない場合は、相互交流が難しくなる。 ・小学校の移転が前提となるため、見込みを建てるのが難しい。 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
地区体育館	既存施設の活用を前提とする。	1 宮寺地区体育館を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。

	地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。			【デメリット】 ・ 高齢者の利便性が低下する可能性がある。
--	--	--	--	--

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
博物館	機能を維持し、長寿命化を図る。
老人福祉センター	当面、現状維持とするが、現在の機能を他の施設に移転・統合することについては継続して検討する。
勤労福祉センター	施設の用途変更や民間への譲渡・売却を検討する。
障害者活動センター	老朽化に伴い施設は廃止し、代替施設については可否を含め別途検討する。

○再整備・再配置の方向性

藤沢第一地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。 ※地区センターに移行しない施設は地区での意見交換を踏まえて活用方法を検討する。	1 藤沢公民館を活用する案	【メリット】 ・既に支所機能があり、他の部屋の機能を見直すことにより、既存施設の活用が見込める。 ・地区の支所としての認知度が高い。 【デメリット】 ・複合化による施設拡大や駐車場確保に向けた敷地拡張の余地がないため、駐車場を離れた場所に設置する必要がある。
		2 藤の台公民館を活用する案	【メリット】 ・藤沢第二地区の地区センターとの配置バランスが良い。 【課題等】 ・複合化による施設拡大や駐車場確保に向けた敷地拡張の余地がないため、駐車場を離れた場所に設置する必要がある。
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・対象エリアが変わらないため、最寄り施設までの距離や時間が維持できる。 【デメリット】 ・2館を存続させた場合、1館分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・現在のサービスは変わらず受けることができる。 【デメリット】 ・各種行政手続きや福祉、地域包括支援センター、自治振興といった地域に必要な機能のワンストップ化につながらない。	

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 藤沢小学校を活用する案	【メリット】 ・地区の中心部に近く、配置バランスが良い。 【デメリット】 ・当面は児童数の減少は見込めず、統廃合の時期については、児童数の推移を見て、実施する必要がある。
		2 藤沢北小学校を活用する案	【メリット】 ・小中一貫教育を行う上では、中学校に近く、実施しやすい環境にある。 【デメリット】 ・豊岡第二地区に存在するため、地区外の施設となっている。 ・当面は児童数の減少は見込めず、統廃合の時期については、児童数の推移を見て、実施する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。 ・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。	
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 藤沢と藤沢北学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 藤沢中学校を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
保育所	施設が比較的新しく、地区の人口減少が少ないため、当面は既存施設を活用することを前提とする。	1 藤沢第二保育所を活用する案	【メリット】 ・既存施設が有効活用できる。 【デメリット】 ・将来的には藤沢保育所との統合を検討する必要がある。
地区体育館	既存施設の活用を前提とする。	1 藤沢地区体育館を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。		【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
健康福祉センター	機能を維持し、長寿命化を図る。ただし、相乗効果が見込まれる場合は、他の施設で提供しているサービスの複合化を検討する。

○再整備・再配置の方向性

藤沢第二地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。	1 東藤沢公民館を活用する案	【メリット】 ・既存施設を活用することができる。 【デメリット】 ・複合施設として整備することを考慮した場合、敷地の拡張が難しい。
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 藤沢南小学校を活用する案	【メリット】 ・敷地が広く複合化による機能拡張に対応しやすい。 【デメリット】 ・地区の南西部に位置しており、藤沢東小と比較すると周辺の住宅が少ない地域に存在するため、通学距離が長くなる児童が多くなる。
		2 藤沢東小学校を活用する案	【メリット】 ・地区の中心部に近いため、多くの児童が通学しやすい。 ・藤沢第一地区から通学する児童の増加が予想される。 【デメリット】 ・市街化が進んでいるため、敷地の拡張の余地が少ない。
	統合しない場合の想定		【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。 ・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。
	複合化しない場合の想定		【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 藤沢東と藤沢南学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 上藤沢中学校を活用する案	【メリット】 ・既存施設を有効活用できる。 【デメリット】 ・地区内になく住宅地と離れていることから、移転について検討する必要がある。
		2 藤沢南小（跡地）を活用する案	【メリット】 ・地区内にはないが、住宅地からの距離が近いとため、多くの生徒が通いやすくなる。 【デメリット】 ・中学校用地としては、多少狭いため、隣接地の取得を検討する必要がある。
保育所	施設が比較的新しく、地区の人口減少が少ないため、当面は、既存施設を活用することを前提とする。	1 藤沢保育所を活用する案	【メリット】 ・既存施設が有効活用できる。 【デメリット】 ・将来的には藤沢第二保育所との統合を検討する必要がある。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

※広域対応施設は地区内に所在しない。

○再整備・再配置の方向性

西武地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。	1 西武公民館を活用する案	【メリット】 ・既存施設を活用することができる。 【デメリット】 ・複合施設として整備することを考慮した場合、敷地の拡張が難しい。
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 西武小学校を活用する案	【メリット】 ・地区の中心部に位置するため、多くの児童が通学しやすい。 【デメリット】 ・地区センター化を予定している西武公民館と隣接するため、地域の拠点施設が一か所に集中する。
		2 仏子小学校を活用する案	【メリット】 ・防災拠点として配置する上で、配置バランスが良い。 【課題等】 ・地区の南端に存在するため、通学距離が大幅に延びる児童がでてくる。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。 ・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。	
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 西武と仏子学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いと見込まれるため、既存施設を活用することを前提とする。	1 西武中学校を活用する案	【メリット】 ・人口密度の高いエリアに存在するとともに、仏子地区に存在するため、地区センターとの配置バランスが良い。 【デメリット】 ・地区の南端に位置するため通学距離が大幅に延びる生徒がでる。
		2 野田中学校を活用する案	【メリット】 ・野田中学校を中心とする範囲に地区の住宅を多く収めるので、より多くの方の利便性が高まる。 【デメリット】 ・地区の西端に位置するため通学距離が大幅に延びる生徒がでる。
	統合しない場合の想定		【メリット】 ・通学区等の見直しがないと、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・学級数が少なくなると、配置される教員数が減少するため、各教科に専任の教員を配置できない可能性がある。 ・生徒数が少ないため、部活動の種類（選択肢）が減る可能性がある。
保育所	既存施設の活用を前提とする。	1 西武中央保育所を活用する案	【メリット】 ・新たな用地取得が不要である。 【デメリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が必要となる。
地区体育館	既存施設の活用を前提とする。	1 西武地区体育館を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
文化創造アトリエ	当面、修繕により維持する。ただし、施設の形態を変えるような改修工事は実施しない。